

# 水草研究会 研究発表

## 2010年8月21日(土)

10:00～ 受付開始

11:00～11:30 総会(講堂)

11:30～12:30 口頭発表(講堂)

L 1. 下田路子<sup>1</sup>・阿部英樹<sup>2</sup>・杉山聖子<sup>3</sup> ( <sup>1</sup>富士常葉大学社会環境学部・<sup>2</sup>中京大学経済学部・<sup>3</sup>日本学術振興会特別研究員) : 江戸時代の生け花の花材となった水辺の植物

L 2. 神谷 要 ((財)中海水鳥国際交流基金財団) : 米子水鳥公園における水草の現状-レジュームシフトが起こった?-

L 3. 平塚智子<sup>1</sup>・八巻礼訓<sup>1</sup>・篠原隆一郎<sup>1</sup>・木内浩一<sup>2</sup>・山室真澄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>東京大学大学院新領域創成科学研究科、<sup>2</sup>千葉県環境研究センター) : 手賀沼のハス群落が水環境に及ぼす影響

12:30～13:30 昼食休憩

13:30～15:20 口頭発表(講堂)

L 4. 木村保夫 (エスベックミック(株)) : スイレンはなぜ消えたのか? 明治神宮南池、その復活にかけた記録

L 5. 辻井要介<sup>1</sup>・森 茂晃<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>島根県立宍道湖自然館ゴビウス、<sup>2</sup>ホシザキ野生生物研究所) : 人工池におけるオニバス保護の取り組みについて

L 6. 熊澤辰徳・角野康郎 (神戸大学理学研究科) : マルバオモダカの繁殖体形成フェノロジーと発芽特性

L 7. 安藤 義範 ((株)建設環境研究所) : 淀川樟葉地区における絶滅危惧種3種(ホソバイヌタデ、タコノアシ、ミゾコウジュ)の観察記録

L 8. 渡辺 肇・魚留 卓 (八千代エンジニアリング(株)) : 淀川における外来水草対策とその効果について

15:30～17:00 公開講演会(講堂)

藤井伸二(人間環境大学) : 氾濫原の植物と琵琶湖・淀川水系の現状

17:00～18:00           ポスターセッション（ナウマンホール）

- P 1. 中川定一（富山県氷見市）：氷見のオニバス（十二町潟のオニバス発生地は国の天然記念物）
- P 2. 松井宏明（（株）環境調査技術研究所）：殖芽は‘土壤シードバンク’の役目を果たせるか？（問題提起）
- P 3. 山崎真実<sup>1</sup>・高橋英樹<sup>2</sup>（<sup>1</sup>札幌市博活動セ・北大農学院、<sup>2</sup>北大総合博物館）：日本の浮葉性ミクリ属～分布と形態～
- P 4. 堀井佳織・角野康郎（神戸大学理学研究科）：狭葉性ヒルムシロ属植物の変異の解析と分類
- P 5. 高田みちよ<sup>1</sup>・小倉直彦<sup>2</sup>・灰原通晴<sup>3</sup>・平井智子<sup>4</sup>（<sup>1</sup>芥川緑地資料館（あくあびあ芥川）、<sup>2</sup>NPO 法人芥川倶楽部、<sup>3</sup>大阪府茨木土木事務と傾地域支援・防災グループ、<sup>4</sup>高槻市市長公室政策企画室）：芥川におけるミズヒマワリの駆除活動
- P 6. 武林周一郎<sup>1</sup>・志賀 隆<sup>2</sup>・淀川水系調査グループ・プロジェクトY植物班<sup>2</sup>（<sup>1</sup>大阪市、<sup>2</sup>大阪市立自然史博物館）：淀川水系における外来水草ボタンウキクサの生活史
- P 7. 志賀 隆・淀川水系調査グループ・プロジェクトY植物班（大阪市立自然史博物館）：大和川水系と淀川水系におけるカワヂシャと外来植物オオカワヂシャおよび雑種の分布
- P 8. 佐藤真貴子<sup>1</sup>・黒沢高秀<sup>1</sup>・薄葉正雄<sup>2</sup>・星嘉一<sup>2</sup>・長林久<sup>3</sup>（<sup>1</sup>福島大・共生システム理工、<sup>2</sup>白河市建設部都市計画課 <sup>3</sup>日大・工）：南湖公園（福島県白河市）のジュンサイ復元に向けた管理方法の提言

18:00～18:10           記念撮影（博物館ポーチ）

18:30～               懇親会（地下鉄長居駅前「うまいもん処 昭和っ家」）